音　楽　科

音楽科の目指す生徒像

- 音楽活動を通して、音楽を楽しむ心、音楽に親しむ生活をもち続けることができる生徒
- 音楽表現の豊かさを感じ、表現の技能を身に付け、自分なりの表現ができる生徒
- 多様な音楽の背景等を理解し、そのよさや美しさを感じて鑑賞し、それを言葉で表現できる生徒

授業評価における課題

アンサンブル活動では「友達と相談すること」、歌唱活動では「歌詞の意味を理解すること」、鑑賞活動では「音楽を聴いて感じたことを言葉で表現すること」について工夫したが、さらに意欲的に表現活動できるように指導していくことが課題である。

言語活動における課題

○ 人より目立つことを嫌い、周りを意識してのびのびと表現活動するのが苦手な傾向がある。
○ 合唱や合奏、鑑賞などを通して他者と共感したり批評し合ったりする活動を充実させることが必要である。

≪本校で検討した言語活動例≫

音楽で表現したいイメージを伝え合い、言語と音楽の関係を大切にした活動

改善策 ①

リズムアンサンブルや和太鼓のアンサンブル、箏の演奏など、表現活動の楽しさに触れる機会を増やす。

改善策 ②

リコーダーのパーフェクトテスト（短い課題を習得する方法）や発声練習の方法（曲に合わせた言葉や高さ）を工夫をしていく。

改善策 ③

鑑賞活動は、鑑賞教材以外にも、生徒同士の発表活動の鑑賞なども含め、聴く観点などを明示する工夫をする。

～ 研 究 の 成 果 ～

- 様々な表現活動を通して、それぞれの特徴を感じとり、ふさわしい表現を工夫しようとする様子が見られるようになった。
- 音楽の背景にも関心を示し、感じたものを自分なりの言葉で表現できるようになった。